

(3) アンケート

アンケート

本日は、本フォーラムにご参加いただきありがとうございます。今回の内容を今後活かしていくため、アンケートへのご協力をお願いします。それぞれ1つ選んで○をつけてください。

Q1. 丹波地域における大学生たちによる取り組みをどの程度ご存知でしたか。

また、興味を持ってましたか。

①ユース六篠（篠山市福住地区）							
1	よく知っていた	2	少しは知っていた	3	全く知らなかった		
1	非常に興味を持った	2	少し興味を持った	3	あまり興味を持てなかった	4	全く興味を持てなかった
【具体的に興味を持てた点・持てなかった点】							
②はたもり（篠山市畑地区）							
1	よく知っていた	2	少しは知っていた	3	全く知らなかった		
1	非常に興味を持った	2	少し興味を持った	3	あまり興味を持てなかった	4	全く興味を持てなかった
【具体的に興味を持てた点・持てなかった点】							
③柏原まちづくりプロジェクト（丹波市柏原町柏原地区）							
1	よく知っていた	2	少しは知っていた	3	全く知らなかった		
1	非常に興味を持った	2	少し興味を持った	3	あまり興味を持てなかった	4	全く興味を持てなかった
【具体的に興味を持てた点・持てなかった点】							
④丹波学生企画部（丹波市青垣町沢野地区）							
1	よく知っていた	2	少しは知っていた	3	全く知らなかった		
1	非常に興味を持った	2	少し興味を持った	3	あまり興味を持てなかった	4	全く興味を持てなかった
【具体的に興味を持てた点・持てなかった点】							

【裏面へ続く】

Q2. 民間事業者による活動支援について、どのように考えましたか。

1	非常に興味を持った	2	少し興味を持った	3	あまり興味を持てなかった	4	全く興味を持てなかった
【具体的な意見】							

Q3. フリーディスカッション・ワークショップについて、いかがでしたか。

1	非常に良かった	2	良かった	3	あまり良くなかった	4	全く良くなかった
【具体的な意見】							

Q4. お住まいの地域で大学生が活動することを期待しますか。また、何を期待しますか。
(現在の活動について又は将来活動することを想定してお答え下さい。)

1	とても期待する	2	どちらかという と期待する	3	あまり 期待しない	4	全く 期待しない
【具体的に期待することをお書き下さい】							

Q5. 本日のフォーラムについて、ご感想・ご意見など自由にお書きください。

--	--	--	--	--	--	--	--

〈最後に〉あなたご自身について、お尋ねします。

住 所

1 篠山市内 2 丹波市内 3 兵庫県内の他市町 4 県外 ()

性 別 職 業

(男 ・ 女) (学 生 ・ 会 社 員 ・ 公 務 員 ・ そ の 他 ())

年 齢

(10代 ・ 20代 ・ 30代 ・ 40代 ・ 50代 ・ 60代以上)

ご協力ありがとうございました。

参加者アンケート集計結果

日 時：平成 24 年 10 月 28 日（日）10:00～12:00

全回答数：55（関係者を除く一般参加者 141 名のうち 55 名が回答）

回 答 率：39%

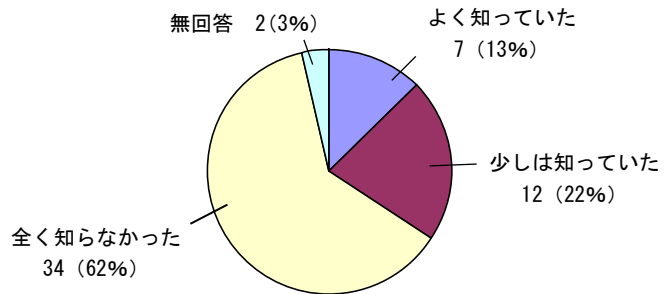
回答者属性

住 所	
篠山市内：1 丹波市内：3 兵庫県内の他市町：23 県外：22 無回答：6	
性 別	職 業
男：29 女：18 無回答：8	学生：39 会社員：4 公務員：5 その他：1 無回答：6
年 齢	
10代：5 20代：35 30代：0 40代：3 50代：4 60代以上：2 無回答：6	

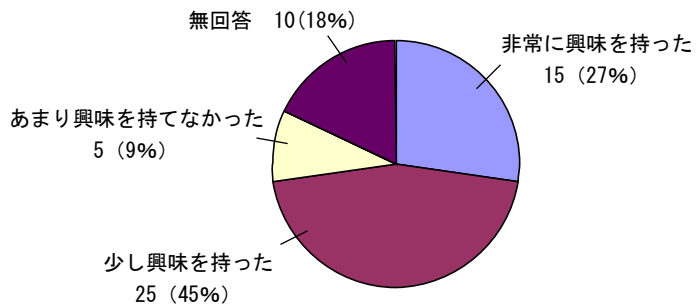
Q1.丹波地域における大学生たちによる取り組みをどの程度ご存知でしたか。また、興味を持ってましたか。

①ユース六篠（篠山市福住地区）

1. よく知っていた	7
2. 少しは知っていた	12
3. 全く知らなかった	34
無回答	2



1. 非常に興味を持った	15
2. 少し興味を持った	25
3. あまり興味を持てなかった	5
4. 全く興味を持てなかった	0
無回答	10



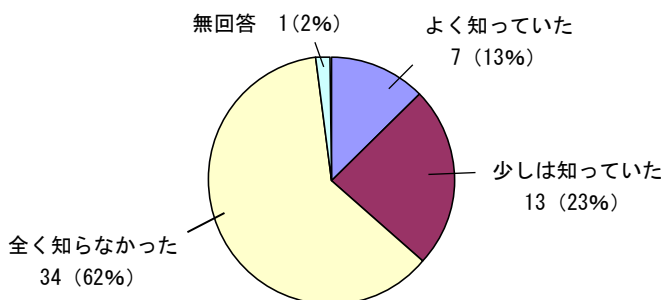
【具体的に興味を持てた点・持てなかった点】

- ふくすみ 2030 に興味を持った
- ふくすみ 2030 という企画に沿って活動を進めようとしているところ
- 地域行事への参加
- 獣害対策には専門家が必要であり、外部から人を呼んで学ぶという姿勢に興味を持った
- 野草クッキングの企画が面白い、農学部ならではの考えだと思った
- 野草クッキングが軌道にのったとき、都会に住む一般人にも参加させてほしいと思った
- 雑草としか思っていないものが実は食べられる、普段と違った観点から入るのは面白い
- 農業資源が豊富だと思った
- 地域に刺激を与えられている
- 真面目な活動内容なのに、それでも地域に貢献できているか、疑問を持っているところ
- 定期的な活動日を定めていること
- 初めは参加から地域に関わり、企画まで行うようになったのがすごい
- 農作業補助や地域振興から、イベント参加に切り替えるなど改善した点
- 具体的な役割が、イベントに参加することだと気付いたこと
- 地域の魅力を活かしたイベントや問題点に積極的に関わっていかうとする姿勢に好感を持った
- 農学部の活動として、サルの情報を得て獣害対策に貢献するのは、新しい取り組みがと思う
- ▲イベントに参加するだけで地域の未来に貢献できるとはとても思えない
 - ・ 獣害対策は生き物との保護の面で難しい問題だと思うので、どのように取り組んでいるか疑問に思った
 - ・ 学生だからこそできること、労力不足や地域課題への取り組みを考えてはどうか
 - ・ 活動に行きたい

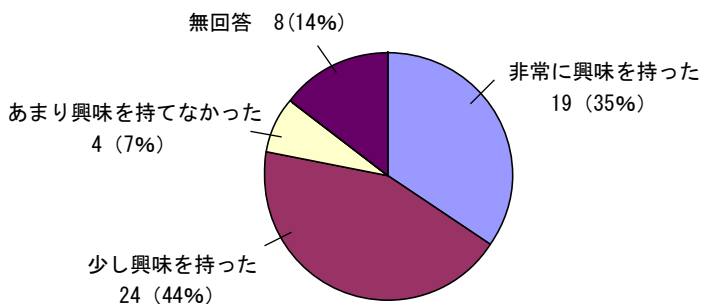
【具体的に興味を持てた点 (○) 持てなかった点 (▲) その他意見 (・)】

②はたもり（篠山市畑地区）

1. よく知っていた	7
2. 少しは知っていた	13
3. 全く知らなかった	34
無回答	1



1. 非常に興味を持った	19
2. 少し興味を持った	24
3. あまり興味を持てなかった	4
4. 全く興味を持てなかった	0
無回答	8



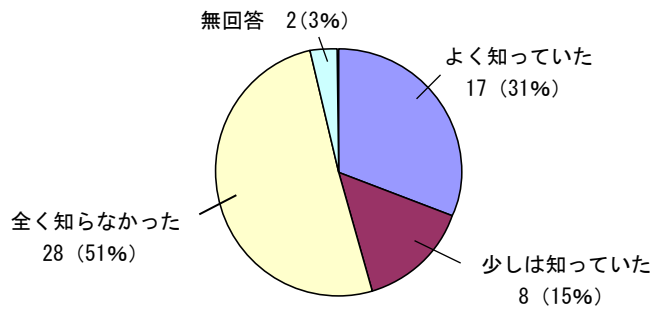
【具体的に興味を持てた点・持てなかった点】

- はた祭りの盛り上げ役として、顔パネルの設置やオリジナル手ぬぐいの販売、クイズラリーの企画など、地域を盛り上げる工夫をしっかりと考えているのが興味深かった
- はた祭りを盛り上げていく企画が面白い
- はた祭りが魅力的で、一度見てみたいと感じた
- 神戸大学はお祭り好きだと思った
- クリンソウについてもっと詳しく聞いてみたい
- Facebook などの利用、情報発信を行っている点
- 歴史資源マップづくりは、他団体のマップよりも質が高いと思う
- 現地の農家さんと一番密接だと感じた
- 発足直後なのに、ものすごく地域に入り込んで活動している
- イベントに密に関わられて、住民とのコミュニケーションはやはり大事だと実感した
- 祭りに参加するというのは、地域と一気に打ち解ける反面、伝統を守ることができるのかという負の面を抱えていることが興味深かった
- マップづくりをしているという面で、似たような活動をしているので、合同でできることがあればいいと思った
- 活動の雰囲気が良かった
- 手ぬぐいを作ったり、スタンプラリーを実践したりと自分たちの積極的な取り組みが見られた
- 名前（はたもり）の由来が面白い
- “役立つ”という視点が優しかった点
- ・“農学”と“農業”の違いを考えながら、ピンポイントで何かを支える事業をつくってはどうか
- ・SNS で情報発信しても、届いていないという課題をどう解決していくか
- ・活動に行きたい

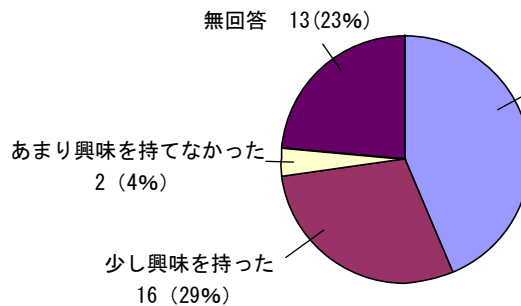
【具体的に興味を持てた点 (○) 持てなかった点 (▲) その他意見 (・)】

③柏原まちづくりプロジェクト（丹波市柏原町柏原地区）

1. よく知っていた	17
2. 少しは知っていた	8
3. 全く知らなかった	28
無回答	2



1. 非常に興味を持った	24
2. 少し興味を持った	16
3. あまり興味を持てなかった	2
4. 全く興味を持てなかった	0
無回答	13



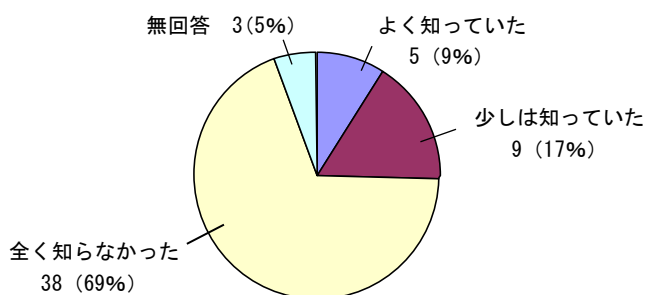
【具体的に興味を持てた点・持てなかった点】

- 高齢化率 30%程度というのはどれくらい進んでいるのかを知りたい
- 外国人の子どもたちを巻き込んだワークショップ、地域の実情に合わせた取り組みが面白い
- コンセプトが明確
- 目的意識をしっかりと持って活動している姿は見習うべきだと思った
- アートクラフトフェスティバルに行ってみたいと思う
- “資源”と“課題”をあぶり出し、解決、改善させていることに共感を持った
- 歴史のある、静かなきれいなまちだと思った
- 大規模で具体的なフィールドをもっている点
- スタジオカフェという形で、地域の方々との交流の場を設けていること
- K J 法は地域の特色を調べるのに最適だと思った
- マップづくり、パンフレットづくりがすごい
- タテ割りの所に学生が活動していくこと
- ワークショップとして、はじめてのおつかいが面白い
- 様々なワークショップを開いてカフェや祭りなどの活動を行い、地域との関わりを重視していた点
- 自分たちと子どもたちの間にアートを組み込んで独創的な取り組みを行っていた
- 老若男女問わず、様々な活動をしている点に興味を持った
- “今と昔をつなぐ”企画がすごく興味深い
- はじめてのおつかいの写真がすごく可愛かった
- 社会的弱者とコミットできた点
- ▲地域住民のまとめ作りなのか、集落機能低下の回復なのか、主体は住民か学生か、いろいろやっていることはそれぞれ面白いが、有機的に繋がっていないと思う
- ▲地域の人と学生とのズレがある
 - ・ゴールは何か、“地域活性化”は具体的な目標ではなく、スローガンだと思う
 - ・資源や課題を見つけたあと、それを売りにしたり改善する提案を地域の方々にするのか

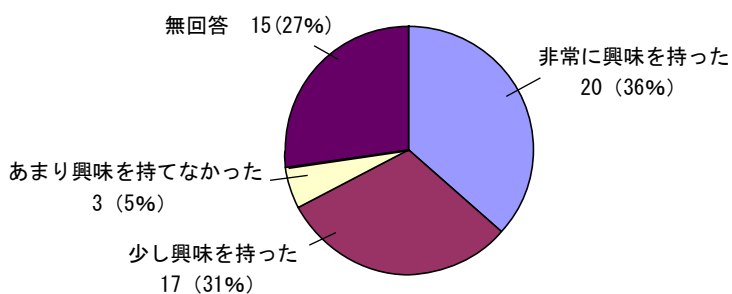
【具体的に興味を持てた点 (○) 持てなかった点 (▲) その他意見 (・)】

④丹波学生企画部（丹波市青垣町沢野地区）

1. よく知っていた	5
2. 少しは知っていた	9
3. 全く知らなかった	38
無回答	3



1. 非常に興味を持った	20
2. 少し興味を持った	17
3. あまり興味を持てなかった	3
4. 全く興味を持てなかった	0
無回答	15

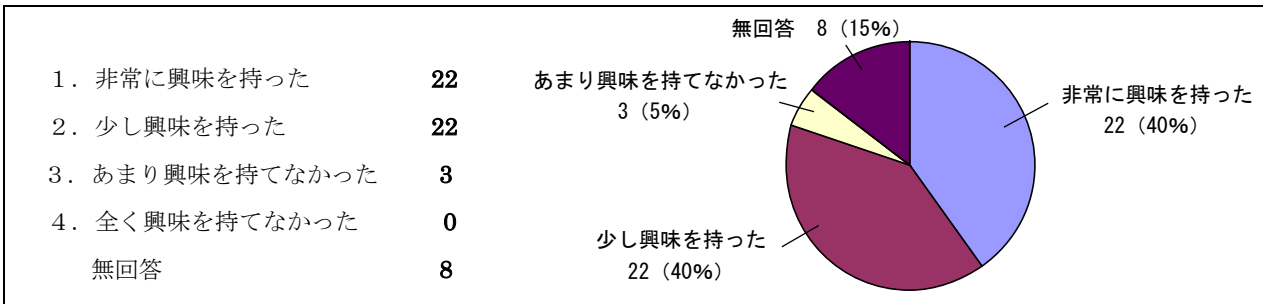


【具体的に興味を持てた点・持てなかった点】

- プロジェクトの3つの軸について、もう少し詳しく聞いてみたい
- 公園の土地改良し、水はけを良くするための傾斜づくりなど具体的な取り組みが面白い
- 今日の発表団体の中で、最も行政（公共政策）と密に連携していたと思う
- まちの景観を考えられていることに好感を持った、美しくてやさしいランドスケープを作ってほしい
- 建築から入ってまちづくりをしている点
- 地域と学生がともに共通する課題に取り組んでいる点
- 地域に入り続けているのはすごい
- 学生が実際に公園を改修するというプロジェクトがあることに本当に驚いた
- ポスターの作成やガードレールの色塗りなど、いろいろなアプローチ方法があるのが新鮮だった
- 持続可能な沢野遊園地を目指していた点
- 公園をより快適に使えるようにいらぬものを取り払ったりして有効な面積利用を考えていることが分かった
- 活動をするプラットフォームを作られた点、継続する可能性がある
 - ・動き続けるためのコアが作れるか、そのような“公園”が集落にとって価値のあるものとして認められるか気になる
 - ・ガードレールを取り除くのは手続きなど大変ではないのか
 - ・繋ぐことにどう結論を得るのか

【具体的に興味を持てた点 (○) 持てなかった点 (▲) その他意見 (・)】

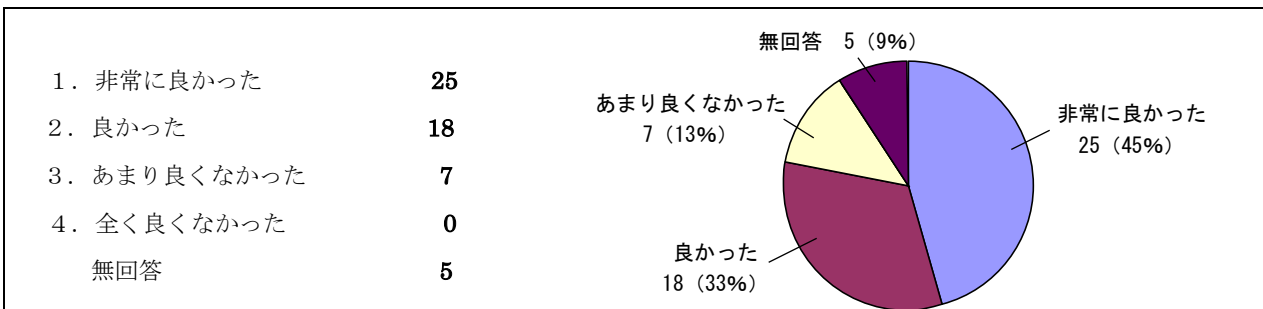
Q2.民間事業者による活動支援について、どのように考えましたか。



【具体的な意見】

- ・出来ることをやっていることが素晴らしい
- ・若い人々が丹波にきて地域を盛り上げて、地域が活性化するという考えに共感でき、活動をもっとしていかなければいけないと感じた
- ・企業参加がこのような形でできるというのは、斬新な取り組みで面白かった、これがボランティア的ではなく、win-winの関係になればもっと良いと思った
- ・大掃除で地域活動の一部になっていたこと
- ・“掃除”というボランティア活動を上手な仕組みで行っていて面白かった
- ・支援の活動がうまくコマーシャルとして企業に還元できないか、と思う
- ・学生さんの“感謝している”という言葉に対して、“篠山に来てくれてありがとう”という応えは、農村地域と都会を繋ぐキーワードだと思った
- ・いつもお世話になりありがとうございます（学生5件）
- ・特に帰りの時間がまちまちであるのに送迎いただき、すごくありがたいと思っている（学生）

Q3.フリーディスカッション・ワークショップについて、いかがでしたか。

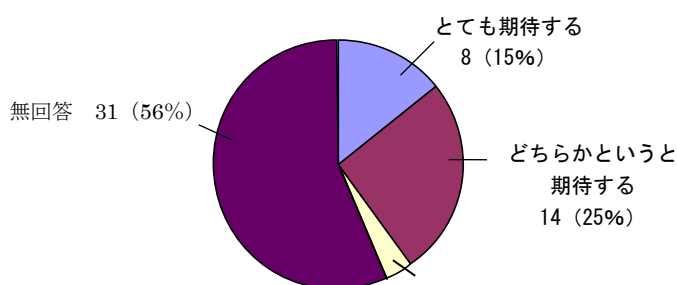


【具体的な意見】

- ・各地域の課題、それぞれの団体の課題を知ることができた（2件）
- ・出てきた問題についてみんなで議論することにより、さまざまな意見が聞けてこのワークショップに参加できて良かった
- ・他大学ではどのようなことが行われているかについて、詳しく知ることができた
- ・学生が地域住民と協働してその地域のために学生なりのアイデアを出し、活性化をはかっていたと思う
- ・他大学との交流はなかなかない機会、充実した内容だった
- ・学生、行政、先生それぞれの考えを共有できて良かったし、とても刺激を受けることができた
- ・他大学での活動と自分の大学の活動の共通点もあり、一緒にこれからも協働できたらいいと思った
- ・ワークショップによって学生の経験値は上がると思う、このような機会をもっと増やすべき
- ・こんなに近くで様々な活動が行われているのにそれを知る術が今までなかった、様々な切り口による活動を知ることによって新たな視点を得られた
- ・考えのパターンの多様性が低い
- ・時間が短すぎる（8件）
- ・行政関係者や地域住民の声がほとんど出なかったのが気になった、自己満足に終わっていないかと思う
- ・何を目的としたものなのか不明だった、ワークショップのデザインを再考したほうが良い
- ・学生が多すぎる、もっと地域の方と交流することが必要ではないか
- ・議題提示は Facebook ではなくパワーポイントではっきり示した方がよい

Q4.お住まいの地域で大学生が活動することを期待しますか。また、何を期待しますか。

1. とても期待する	8
2. どちらかという期待する	14
3. あまり期待しない	2
4. 全く期待しない	0
無回答	31



【具体的に期待すること】

- ・新しい発想や仕事を生み出してほしい
- ・自分の住む地域ではこのような活動がないため期待する
- ・高齢化が進む現在、学生が関わることによって地域の発展が望める
- ・地域の担い手不足になっている分野に、学校が後押ししてもいいのでしっかり作りをしてもらいたい
- ・仕組みづくりはできていないが、どうすれば学生に来ていただけるだろうか
- ・コーディネーターがいて、継続性がある、ゴールが明確に設定されていて、地元の負担が重くなくて、かつ、学生と地元がメリットを感じられることが重要
- ・学生が関わると、活気があふれて地域活性化に貢献できると思うが、ただ学生がやりたいだけで外部からいきなり活動を始めてほしくない
- ・住民へのニーズ調査を行い、そのニーズに応える活動でないと、ただの自己満足になる
- ・都市（東京、千葉、神奈川）などの学生は、自分のことしか考えていないので、期待していない
- ・若い人が来るだけで地元住民は喜んでいるが、負担や不満が徐々に募ってくる
- ・学生による地域資源の掘り起こしは、地元住民の地域見直しという点でファーストステップとしては有効だと思うが、そのあとそれをどうするのかを、地元の意向を聞いて合意形成していく必要がある

Q5.本日のフォーラムについて、ご意見・ご感想などご自由にお書きください。

- ・参加することに意義があると思った
- ・目的が明確であればより良くなると思う
- ・いろんな視点で物事を見ることができ、大変有意義な時間を過ごせた
- ・お互いの意見交換ができて良かった、普段交流のない人たちとの意見交換で良い刺激になった（3件）
- ・学生たちが今後、この地と関わりを持ち続けることができれば良いと思う
- ・このような機会に参加できることがすごく貴重な体験だった、今回の意見交換した内容を持ち帰り、これからの活動に活かしながら関わっていきたくと思った
- ・ワークショップ形式の今回のフォーラム、大変良かったと思う
- ・いろんなことを考えさせられた良い機会となった、このようなフォーラムが継続して開催されることを望む
- ・他大学の学生も同じような問題を持っている方もいて、今後も情報共有できればいいと思った
- ・今までの活動について、改めて見直すきっかけになった
- ・こんなにたくさんの参加者がくるとは思わなかったので驚いた
- ・発表は予想通りのことが多かったが、関心の高い学生や院生、教員、行政が多いのが心強く感じた
- ・地域に深く入るアプローチが全くないのが大きな問題、今の活動は地域貢献にはほとんどなっていないと思う
- ・時間が少ない
- ・アンケートが記述式ばかりで重たい
- ・全ての学生活動に対して、活動の根源は対象地域の方々のニーズであるはずなのに、そのニーズが発表時に明らかにされなかったため、どの企画も浮ついたものに見えてしまった
- ・活動を始めてから“この活動は何のため、どこに繋がるか”を話すのは、順序として間違っている気がする、住民の方々へのニーズ調査をきちんとした方が良かったと思った

(4) プログラム資料

丹波地域 大学連携フォーラム in 篠山

学生たちとつくる地域の未来

とき 平成 24 年 10 月 28 日(日)
10:00~12:00 (開場 9:30)

ところ 篠山市立篠山市民センター
〒669-2321 篠山市黒岡 191
TEL : 079-554-2188



主催：丹波地域大学連携フォーラム実行委員会

(関西大学、関西学院大学、神戸大学、兵庫県立大学、篠山市、丹波市、兵庫県丹波県民局)

後援：文化庁、神戸新聞社、産経新聞社、朝日新聞社神戸総局、読売新聞社豊岡支局、毎日新聞社神戸支局、丹波新聞社

—— 学生たちとつくる地域のみらい

現在丹波地域では、関西大学、関西学院大学、神戸大学、兵庫県立大学がそれぞれ活動拠点を設置し、地域連携の基に各地域の課題を踏まえ、それぞれ違ったテーマで地域と連携した活動を展開しています。

その中で、大学での授業やゼミ活動の取り組みとは別に、自主的に地域と連携してさまざまな活動を実践する学生グループも出てきています。

また、そのような学生による地域貢献活動に対し、行政に加えて、民間事業者の方にも自ら支援する活動が芽生えてきています。

この度の丹波地域大学連携フォーラム in 篠山では、学生の知恵、経験等を活かした地域への貢献活動を報告し、あわせて民間事業者の方による支援の取り組みを紹介します。

そしてフォーラム後半は、参加者全員によるワークショップ形式のフリーディスカッションによって、日頃活動する上でのノウハウや課題の共有を図るとともに、学生と地域住民の方々や学生相互の交流を通じて、地域の活性化に期待される学生の力や今後の活動を展望します。

また、本日は篠山市民センター内において、各大学が日頃の活動内容などをパネル展示しています。皆様にご覧いただき、今後の大学と地域の連携活動の発展を考える契機となれば幸いです。

プログラム


- 10:00 **開会**
開会挨拶 丹波地域大学連携フォーラム実行委員会副会長 角野 幸博
兵庫県丹波県民局長 梅谷 順子
- 10:10 **趣旨・概要説明**
兵庫県丹波県民局丹波土木事務所まちづくり参事 出野上 聡
- 10:20 **活動状況報告**
ユース六篠 神戸大学農学部3回生 長井 拓馬
はたもり 神戸大学農学部2回生 森田 綾子
柏原まちづくりプロジェクト 関西学院大学総合政策学部修士1年 松田 卓也
丹波学生企画部 関西大学環境都市工学部建築学科4回生 植地 惇
- 11:00 **民間における活動支援の報告**
Mランド丹波ささ山 専務取締役 井階 正義
- 11:05 **フリーディスカッション・ワークショップ**
コーディネーター 神戸大学大学院農学研究科 准教授 中塚 雅也
- 12:00 **閉会**



丹波地域 学生グループの活動エリア図

(5) 「創造農村フォーラム in 篠山」 チラシ

創造 農村 フォーラム



HYOGO Pref. SARAYAMA City KOBE City

in
篠山

なつかしいみらい。
先人たちが悠久を祈ったように、百年後の未来を眺望したい。
農山漁村が持つ空間や文化に基づいて、
新しく、豊かな国を創りたい。

**会期：2012年10月27日(土)
28日(日) 29日(月)**
会場：篠山市民センター
(〒650-2221 兵庫県篠山市黒岡191)

日本公共政策学会 学生政策コンペ
10月27日(土) / 10:00~17:15

丹波地域大学連携フォーラム in 篠山
10月28日(日) / 10:00~12:00

第2回 創造農村ワークショップ
10月28日(日) / 13:00~17:30(予約)

お問い合わせ：篠山市政策部企画課 篠山に住もう帰ろう室 079-552-5106 <http://creative-city.jpn.com/> 創造農村 🔍

<p>日本公共政策学会 学生政策コンペ</p> <p>主催 公共政策フォーラム2012 in 篠山実行委員会</p> <p>篠山市/日本公共政策学会/一般社団法人ノオト/NPO法人都市文化創造機構/神戸大学</p>	<p>第2回創造農村ワークショップ</p> <p>主催 篠山市/一般社団法人ノオト</p>	<p>丹波地域大学連携フォーラム in 篠山</p> <p>主催 丹波地域大学連携フォーラム実行委員会</p> <p>兵庫県丹波県民局/篠山市/丹波市 関西大学/関西学院大学/兵庫県立大学/神戸大学</p>
<p>協賛 文化庁(予定)/兵庫県丹波県民局/神戸新聞社/産経新聞社/朝日新聞社神戸総局/読売新聞社豊岡支局/毎日新聞社神戸支局/丹波新聞社 協賛 株式会社ぐるなび</p>		

成長から縮小へ、所有から共有へ。市場原理から文化多様性へ。

いま価値転換の時代を迎えて、この国は新しい世界観、新しい社会システムを創造できるでしょうか。

新しく、この国のかたちを削っていく創造性は、農山漁村が持つ空間や生活文化のなかに多く残っているはずで、

このフォーラムでは、その豊かさにもう一度光をあてて、人と人、人と自然の関係を見直していきたいと思ひます。

先人たちが、自然に対する感謝と畏敬を抱きながら、その土地の悠久を祈ったように、

私たちが、少し視線を上げて、百年後の未来を眺望したい。

そのうえで、目の前の地域課題に向き合っていきたいと思ひます。

第2回創造農村ワークショップパネラー

大南 信也氏 *Shinya Ominami*

徳島県
神山町

NPO法人グリーンバレー 理事長
<http://www.in-kamiyama.jp/>



1953年徳島県神山町生まれ、米田スタンフォード大学院修了、「神山アーティスト・イン・レジデンス」や「神山塾」開設による人材育成、IT企業のサテライトオフィス誘致を推進。的確な目標に向かって遠征化を進め、人口構成の健全化を目指す「創造的遠征」を持論に活動中。

阿部 知弘氏 *Tomohiro Abe*

山形県
鶴岡市

山形県鶴岡市役所 食文化創造都市推進担当
<http://www.creative-tsuruoka.jp/>



1968年山形県鶴岡市生まれ、2010年より、食文化創造都市推進事業の担当者として、食文化の創造性を地域産業の振興や交流人口の拡大、食育等に多面的に活用する地域活性化プロジェクトに取り組んでいる。

牧 大介氏 *Daisuke Maki*

岡山県
西粟倉村

株式会社西粟倉・森の学校 代表取締役
<http://www.morinogakko.jp/>



1974年京都府生まれ、京都大学大学院農学研究科(森林生態学研究室)修了後、三和総合研究所入社、2005年にアミタ持続可能経済研究所を設立し所長就任、2009年より株式会社西粟倉・森の学校代表取締役。

清水 雄太氏 *Yuta Shimizu*

東京都
利島村

東京島しょ農業協同組合利島店
<http://www5.ocn.ne.jp/~jatosima/>



1986年生まれ、東京農業大学卒業、食品メーカーの営業を経て、2010年2月に利島へ移住。現在は東京島しょ農業協同組合利島店の職員として、醤油の販路拡大や認知度向上のため、首都圏と島を飛び回る、利島一元気な営業マン。島の漁業や歴史にも精通する利島衛門の若手として島の活性化にも取り組んでいる。

金野 幸雄氏 *Yukio Kinno*

兵庫県
播磨市

流通科学大学教授/一般社団法人ノオト 代表理事
<http://plus-note.jp/>



1955年徳島県生まれ、東京大学工学部土木工学科卒業後、兵庫県職員、播磨市副市長を経て2011年から現職。専門は都市計画、国土計画、公共政策など。播磨市を拠点に、限界集落の再生、農村地域の再生に取り組んでいる。

佐々木 雅幸氏(コーディネーター) *Masayuki Sasaki*

大阪市立大学大学院創造都市研究科教授/同都市研究プラザ所長
<http://www.creative-city.net/>



1949年愛知県名古屋生まれ、博士(経済学)、文化経済学会<日本>会長(2008-10年)、著書に『創造都市への挑戦』『創造都市と社会包摂』(共編著)等がある。NPO法人都市文化創造機構理事長も務め、理論と実践の両面から創造都市の具現化とネットワーク構築に取り組んでいる。

① 日本公共政策学会 学生政策コンペ

テーマを「地域の再生～創造的なまちづくりと農村・地方都市の可能性」とし、学生コンペや交流会、コンペの優秀グループによる発表、シンポジウムを開催します。学生コンペでは、こうした農村・地方都市において、地域の再生に向けた創造的なまちづくりを展開していくためにとるべき公共政策について、具体的な提案を行う場となります。

参加自由 無料

② 丹波地域大学連携フォーラム in 篠山

テーマは「学生たちがつくる地域の未来」。兵庫県丹波地域に活動拠点を置く関西大学、関西学院大学、兵庫県立大学、神戸大学と兵庫県、篠山市、丹波市の連携事業から学生による地域貢献活動が生まれています。学生、地域住民から報告を受け、参加者とともに、地域活性化に期待される学生の方や今後の発展性についてディスカッションします。

参加自由 無料

③ 第2回 創造農村ワークショップ

テーマは「創造農村への道標～懐かしい未来～」。全国各地の創造農村のメンバーをパネラーにワークショップを開催します。創造農村とは、地域に根ざした革新的で柔軟な経済システムを備え、ローカルな地域社会の課題や、あるいはグローバルな課題問題に対して、創造的課題解決を行えるような「創造の場」に富んだ地域のこと、日本の農村の未来への展望を話し合う場となります。また後半は「創造農村discovery～未来の農村編～」と題して、今後の創造農村の姿を展望します。

参加自由 無料

④ 創造都市ネットワークミーティング

創造都市(創造農村)に関心のある方々が参加するネットワークの全国組織設立に向けて、体制や今後の活動について話し合います。

⑤ 創造農村マルシェ

四季を巡り、バラエティに富んだ食の魅力が溢れる篠山市、その食文化が一堂に会するマルシェを会期中に開催します。市民参加のブースも出店し、大きな賑わいを見えます。

参加自由

⑥ 創造農村企画展示ブース

地域に根ざした取り組みや商品などのPR用ブースが並び、フォーラムを盛り上げます。

参加自由

⑦ 篠山クリエイティブ農村ツアー

篠山市内の古民家改修・集落再生の現場を巡るツアー。28日は「黒漆丸山」を、29日は「ささまい」や「天空農園」などの古民家を巡ります。

※ツアーの内容は変更となる場合があります。

要申し込み:10月10日締切 3500円 篠山ランチ付き

⑧ ササヤ・バル&懇親会

篠山城下町が一日限りのバルに!それぞれの飲食店で創造農村について熱い議論が盛り上げられます。28日は「篠山ギャラリーKITA'S」にて創造農村フォーラムのパネラー陣の懇親会も開催されます。

参加自由 参加費別途 ※懇親会は関係者のみの参加となります。

⑨ 里山ランチ

食材の宝庫、篠山地方の特色を實況に使ったランチです。この機会にぜひ一度、お召し上がりください。

要申し込み:10月10日締切 1500円

会期中のスケジュール

	10月27日(土)	18:30~	10月28日(日)	18:30~	10月29日(月)
篠山市民センター	①日本公共政策学会 学生政策コンペ ⑨里山ランチ		②丹波地域大学連携フォーラム in 篠山	③第2回 創造農村ワークショップ	④創造都市ネットワークミーティング ⑨里山ランチ
	③創造農村マルシェ(※オープンスペースで常時開催)				
	⑥創造農村企画展示ブース(※オープンスペースで常時開催)				
市内		⑧懇親会 (ユニヒア ささやま) ⑧ササヤ・バル	⑦篠山クリエイティブ農村ツアー ※懇親者のみ ⑨里山ランチ	⑧ササヤ・バル & 懇親会	⑦篠山クリエイティブ農村ツアー ※懇親者のみ ⑨里山ランチ

各イベントのお問い合わせ先

篠山市政策部企画課: 079-552-5106

① 日本公共政策学会 学生政策コンペ ② 第2回 創造農村ワークショップ

丹波県民局丹波土木事務所まちづくり建築課: 0795-73-3862

③ 丹波地域大学連携フォーラム in 篠山

NPO法人都市文化創造機構: info@creative-city.net

④ 創造都市ネットワークミーティング

一般社団法人ノト: 079-552-7373

⑤ 創造農村マルシェ

⑥ 創造農村企画展示ブース

⑨ 里山ランチ

一般社団法人ノト: info@roots.jp

⑦ 篠山クリエイティブ農村ツアー

⑧ ササヤ・バル

フォーラムの傍聴について

一般参加自由(無料)

お申し込み、ご予約は不要です。お気軽にご来場ください。
※席数には限りがございますので、満席時には入場を制限させていただく場合がございます。

企画展示の募集

創造農村フォーラムの会場で、みなさんの活動をPRしてみませんか？

地域に根ざした取り組みや商品など、PR用ブースをオープンスペースに設置。会場の雰囲気と一緒に盛り上げましょう！
※ブース設置スペースには限りがございますので、申し込みが定員に達し次第、締め切りさせていただきます。

企画展示についてのお問い合わせ先 URL <http://creative-city-jpn.com/2nd-forum/> 電話 079-552-7373 一般社団法人ノット(木村、神島、中原)

会場へのアクセス

会場：篠山市民センター(〒669-2321 兵庫県篠山市黒岡191)



自動車

- 【大阪から】中国自動車道古川JCT
→舞鶴若狹自動車道丹南篠山IC
→篠山市街(大阪市内から約60分)
- 【神戸・三宮から】中国自動車道神戸三田IC
→吉川JCT
→舞鶴若狹自動車道丹南篠山IC
→篠山市街(神戸市内から約60分)

電車

- 【京都・大阪から】JR東海道本線・尼崎駅→JR福知山線→篠山駅
- 【神戸・三宮から】阪急神戸線・西宮北口駅→阪急宝塚線・宝塚駅→JR福知山線→篠山駅
地下鉄北神急行→谷上駅→神鉄三田線→三田駅→JR福知山線→篠山駅
JR東海道本線→尼崎駅→JR福知山線→篠山駅

バス

- 【篠山駅から】篠山駅から神姫グリーンバス篠山営業所行「二期町」バス停下車
北へ徒歩10分

ちよいのみ
ほるよい

開催期間
10月26日(金)
~28日(日)

ササヤ・バル

同時開催計画!

企画:ササヤ・バル実行委員会(事務局:ROOT 079-552-3988)

「バル(=BAR)」とは、とはスペイン語で
「いつでも立ち寄れる気軽なお店」

「ササヤマ+バル」で「ササヤ・バル」!
城下町エリアで町あるき&飲み歩きをお楽しみください。
10月初旬にマップとお得なHAPPYチケットを入手、
お店で注文時に提示すると、
割引メニューや期間限定メニューが出てきます。
黒豆の枝豆の出荷が終わるこの時期に、
家族やお仲間でカンパニー!
秋の夜長を城下町でお過ごしください。

(6) 「創造農村フォーラム in 篠山」開催概要

10月27日(土)から29日(月)までの3日間、兵庫県篠山市において「創造農村フォーラム in 篠山」が下記のとおり開催されました。学生による公共政策の発表の場となる「日本公共政策学会 学生政策コンペ」、丹波地域をフィールドに地域と連携した活動を展開する4大学による「丹波地域大学連携フォーラム in 篠山」、創造的な取り組みにより地域再生を行う自治体や団体関係者をパネリストに招いた「創造農村ワークショップ」、国内における創造都市のネットワークの立ち上げを目指す自治体関係者が集う「創造都市ネットワーク日本 CCNJ (仮称)」。これら4つのフォーラム、シンポジウムを同一会場にて行い、各フォーラム関係者間での交流も行われました。

期間中、会場内オープンスペースにて開催されたマルシェやパネル展示では一般市民の方の姿が、また市内の古民家再生によってオープンした宿泊施設や店舗を巡る「篠山クリエイティブ農村ツアー」にはオーナーの話を熱心に聴き入る全国各地からの参加者の姿が見られました。

記

1. 日本公共政策学会 学生政策コンペ

日 時：平成24年10月27日(土) 10:00～17:15

主 催：公共政策フォーラム2012 in 篠山実行委員会

(篠山市／日本公共政策学会／一般社団法人ノオト／NPO法人都市文化創造機構／神戸大学)

2. 丹波地域大学連携フォーラム in 篠山

日 時：平成24年10月28日(日) 10:00～12:00

主 催：丹波地域大学連携フォーラム実行委員会

(兵庫県丹波県民局／篠山市／丹波市／関西大学／関西学院大学／兵庫県立大学／神戸大学)

3. 第2回創造農村ワークショップ

日 時：平成24年10月28日(日) 13:00～17:30

主 催：篠山市／一般社団法人ノオト／日本公共政策学会

4. 「創造都市ネットワーク日本 CCNJ (仮称)」第2回発起団体会議

日 時：平成24年10月29日(月) 10:00～12:00

主 催：NPO法人都市文化創造機構

5. 創造農村マルシェ

日 時：平成24年10月27日(土) 28日(日) 29日(月) 10:00～17:30

主 催：一般社団法人ノオト

6. 創造農村企画展時ブース

日 時：平成24年10月27日(土) 28日(日) 29日(月) 10:00～17:30

主 催：一般社団法人ノオト

7. 篠山クリエイティブ農村ツアー

日 時：平成24年10月28日(日) 10:00～12:30、29日(月) 12:30～15:30

主 催：一般社団法人ノオト

協 賛：株式会社ぐるなび

後 援：文化庁、兵庫県丹波県民局、神戸新聞社、産経新聞社、朝日新聞社神戸総局、読売新聞社豊岡支局、毎日新聞社神戸支局、丹波新聞社

(7) 実行委員会

丹波地域大学連携フォーラム実行委員会 会則

(名 称)
第1条 この会は、丹波地域大学連携フォーラム実行委員会（以下「実行委員会」という。）という。

(目 的)
第2条 実行委員会は、丹波地域において大学が地域と連携して行うまちづくりや農業等に関する活動の発信及び大学と地域の連携の発展を目的とした「丹波地域 大学連携フォーラム in 篠山」の実施に関する企画調整及び進行管理を行い、適切かつ円滑に遂行することを目的とする。

(事 業)
第3条 実行委員会は、前条の目的を達成するため、次に掲げる事業を行う。
(1) 企画及び事業計画の策定に関すること
(2) 総合調整及び進行管理に関すること
(3) 広報活動の推進に関すること
(4) その他必要な事項

(構成員)
第4条 実行委員会は、別表に掲げる者をもって構成する。

(役 員)
第5条 実行委員会に、会長1名、副会長3名を置く。
2 会長は、委員の互選によりこれを定め、副会長は委員の中から会長が指名する。
3 会長は、実行委員会を代表し、会務を総括する。
4 副会長は、会長を補佐し、会長が不在のとき、または会長に事故があるときは、その職務を代行する。
5 監事は、丹波県民局丹波土木事務所工事業務課長をもって充てる。
6 監事は、会計を監査する。

(会 議)
第6条 実行委員会の会議は、必要に応じて会長が招集し、会長がその議長となる。

2 委員会は、委員の半数以上が出席しなければ会議を開くことができない。
3 委員が、事故その他やむを得ない理由により会議に出席できないときは、あらかじめ会長の承認を得て、代理人を出席させることができる。
4 実行委員会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数の時は議長の決するところによる。
5 実行委員会はその下にワーキング会議を設置し、開催することができる。ワーキング部会の運営に関する事項は別に定める。

(会長の専決処分)
第7条 会長は実行委員会を招集するいとまがないとき、又は本会の権限に属する事項で簡易なものについては、これを専決処分することができる。
2 前項の規定により専決処分したときは、会長は、これを次の実行委員会において報告し、その承認を求めなければならない。

(会計)
第8条 実行委員会の会計は、事務局が処理する。
2 実行委員会の経理は、負担金その他の収入をもって充てる。

(事務局)
第9条 実行委員会の事務局は、兵庫県丹波県民局丹波土木事務所まちづくり建築課に置く。
2 事務局長は、兵庫県丹波県民局丹波土木事務所まちづくり建築課長の職にある者をもって充てる。

(補 則)
第10条 この会則に定めるもののほか、実行委員会の運営に関し必要な事項は、会長が別に定める。

附 則
この会則は、平成24年7月25日から施行し、平成25年3月31日限りで失効する。

別 表
丹波地域大学連携フォーラム実行委員会委員 (順不同)

氏 名	分 野	所属団体・役職	備 考
江川直樹	学識経験者	関西大学 環境都市工学部 教授	会長
角野幸博	学識経験者	関西学院大学 総合政策学部 教授	副会長
田原直樹	学識経験者	兵庫県立大学 自然・環境科学研究所 教授	副会長
高田理	学識経験者	神戸大学大学院 農学研究科 教授	委員
上田英樹	行政	篠山市 政策部長	委員
梅田秀光	行政	丹波市 まちづくり部長	委員
近藤俊幸	行政	丹波市 産業経済部長	委員
出野上聡	行政	兵庫県 丹波県民局丹波土木事務所 まちづくり参事	委員
高階強	行政	兵庫県 丹波県民局丹波土木事務所 工事業務課長	監事

<事務局> 丹波県民局 丹波土木事務所 まちづくり建築課長 瀬尾 保志

丹波地域大学連携フォーラム in 篠山

報告書

平成 25 年 1 月発行

編集・発行 丹波地域大学連携フォーラム実行委員会事務局
兵庫県丹波県民局 丹波土木事務所 まちづくり建築課
〒669-3309 兵庫県丹波市柏原町柏原 688
TEL : 0795-73-3862、FAX : 0795-72-4596